

(4) 女子中学高等学校の運営計画

校長 浅里慎也

2021年度 年間聖句

「キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。」

エフェソの信徒への手紙 2章 21節

はじめに

初等中等学校の教育が大きく変わろうとしています。2021年大学入学共通テストは当初予定されていた試験内容の中止・変更が直前に発表されるなど課題を留保しつつ実施されました。試験内容は新学習指導要綱に記された内容「主体的・協働的に問題を発見して行くために必要な思考力・判断力・表現力が求められる社会において、自立した人間として生きる力を持つ生徒の育成」が既に十分に組み込まれたものでした。新学習指導要綱が求める“何を知っているかから何ができるか”、“知っていることをどのように使うか”、“グローバル社会と英語教育”、“多様性の尊重とリーダーシップ”を持つ生徒の育成内容は、本校(学園)の建学の精神(教育理念)に一世紀以上前に創立者スミスが明確に示した内容に他なりません。私たちは時代の要請を理解し、建学の精神の具現化、教育改革に努めなければなりません。新学習指導要綱は、中学校は2021年度から、高校は2023年から始まります。

昨年度本校は、学校運営のスピードアップと新しい教育に対応することを目的として新しい分掌を立ち上げ、運営体制並びに組織改革を行いました。今年度は教育改革第Ⅰ期において実施した「アクティブ・ラーニング」、「SDGs教育」、「GSラボ(総合学習)」に加え、探究型の授業、PBL型学習を取り入れ、これから時代に必要な学力・能力習得を目指す教育改革第Ⅱ期に臨みます。

2021年度入試結果は一貫・高校ともに2月5日現在、一貫課程入学生徒数は昨年度並み、高校入学生徒数は昨年度比約10%増を予想しています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が直接間接にあり、当初予想した生徒募集活動が大きく制限を受けました。今後も努力を継続しなければなりませんが、昨年度の生徒募集活動は制約された中で一定程度以上の結果を出せたと考えます。2021年度入試結果を分析検討して新年度入試対応策に反映させ、入試広報・生徒募集活動を実施します。

本校にとっての危急の課題である財政健全化は、全ての教育活動領域において単年度ごとの改善努力を重ね点検し、併せて中期的な視野に立つ目標を見据えて実現していくかなければなりません。財政再建と同じく取組まなければならない大きな課題に働き方改革があります。教育の質を担保しつつ教職員の労働環境を整え、教育に反映できる具体策を実施に移していきます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により教育活動が大きく制限を受け、緊急対応に迫られる事態となりました。しかしこの期間は、緊急対応によって再検討しなければならない事態や休校等によって立ち止まり考えざるを得ない経験を通して、本校の教育の原点を再考することができた恵の時間もありました。また、休校が長期化したため遠隔授業実施が急がれ、ICT機器・Wi-Fi環境整備が急務となりましたが、GIGA構想の前倒し実施と学園主導によりICT環境が整備されました。今年度は整備された環境を有効に活用する教育を行います。今後も学園ICT活用教育委員会の働きに期待します。

1. 「建学の精神」に基づくキリスト教教育について

昨年度コロナ禍によって生じた不確実で不透明な社会状況は、2021年度も続くことが予想されます。昨年度は大きな制約を受けながら学校生活を送る生徒たちを前にして、学校として何ができるのか、何をすべきなのかを自問し、「建学の精神」に記されている“宗教的・靈的影響”についての意味、キリスト教学校としての存在と意義について考えさせられる機会になりました。ともすると学校では学習面を中心とした影響と対策が多く語られがちですが、キリスト教教育の精神が学校生活の基となる学校として、礼拝（講堂・学級）や聖書の授業を通して、教科を超えた生徒の心のケアを含めた働きを担い、前年度の経験を活かした学校づくりに務めます。

- ・学級礼拝、講堂礼拝の工夫と充実と内容の深化
- ・学年聖句を用いた継続性のある礼拝と授業の継続
- ・地域教会との関係構築
- ・道徳の教科化についての研究の継続
- ・キリスト教主義学校としての平和教育

2. 学習指導及び生徒指導について

1) 学習

3年間実施した教育改革第Ⅰ期の総括を活かし、今年度も科コースの特徴を踏まえた学習指導を継続します。昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、体験を取り入れた教育プログラムを十分機能させることができませんでした。これらの経験を生かして学習指導を行います。また、これまで実施してきた「商品開発」、「SDGs教育」、「GSラボ（総合学習）」に探究型の授業、PBL型学習を取り入れ、生徒の主体的な学び学習に取組みます。

- ・言語教育（英語・国語）の研究
- ・ケンブリッジ英検認定校の継続
- ・全生徒の学力向上
- ・英語研修プログラム（長期・短期・国内）の研究
- ・オンライン授業の研究
- ・探究型授業の推進、PBL学習の取組み
- ・オンライン指導の研究
- ・タブレットを使用した授業研究

2) 厚生

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により従来の活動に多くの制限がかかることが予想されます。昨年度同様の工夫と今年度新設するコロナ対策委員会での検討を参考に奉仕と活動に努めます。

- ・活動内容：YWCAによる教会での奉仕、ZontaG クラブ、札幌ライラックまつり奉仕、施設訪（神愛園手稻・ケア盤渓・手作りクリスマスプレゼント）。

3) クラブ指導

本校には全国・全道大会に出場するクラブから同好会まで多くの生徒が部活動に参加しています。また、本校での部活動を明確な入学目的とする生徒も毎年一定数以上おり、生徒募集上も好影響を与えています。部活動と学業が両立できる環境を更に整えます。今年度も指導上のいじめ及び体罰には十分注意を払い、調査等を通して指導上の事件事故が発生しないように魅力ある部活動づくりに努めます。

4) 進路指導

文科省の“新学習指導要綱”を先取りするかたちで不確定な部分を残しながら始まった大学入学共通テストと各大学入試内容の情報収集と研究を十分行います。本校の一貫教育・高校普通科（Core コース/High コース）専門英語科・専門音楽科の特徴を生かして探究型教育を取り入れ、社会との関わりと学びを通して生徒自身が自分の進路を選択し達成出来るように努めます。

- ・大学入学共通テスト対策
- ・学習合宿（High コース）の実施
- ・補習・講習の充実
- ・オンライン指導の研究

5) 生活指導

昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による学校生活の制約変更や不安から、生徒のメンタル・体調両面に影響が出てきています。また、不安や心配の内に娘を学校に送り出している保護者に対しても丁寧な対応が必要です。従来通りいじめ等の調査を例年以上に注意を払い実施し、生徒状況をより早く把握するように努めます。更にスクールカウンセラー・保護者の協力やキリスト教学校として礼拝や聖書の時間を使って心の問題にも取組んでいきます。

- ・コロナ禍等における生徒対応
- ・保護者が期待する生活習慣の習得
- ・生徒指導、保護者対応の研修
- ・学校生活マナー指導 5 項目(挨拶・言葉遣い・大声を出さない・飲食・正しい制服着用)

3. 教員の資質向上について

教科力、学級経営力、コミュニケーション力(生徒教員間・教員間)、保護者対応力など教員に必要とされる対応は多岐にわたります。加えて創立者が残した教育理念と歴史から女子中高教員として備えるべき資質を学び、より良い学校づくりに生かします。

- ・担任研修（学級運営・保護者対応）の実施
- ・初任者研修・中堅教員研修（キリスト教学校教育同盟・私立中高協会・他）への参加
- ・on-line 校内外研修の実施と活用

4. 生徒募集について

1) 入試

昨年度入試は、コロナ禍による影響のためこれまで以上に予測が難しい生徒募集でした。一貫入試に 3 年前から英語入試を導入し、入試を I 期・II 期の 2 回に分け受験機会を増やしたことが生徒数確保に、また学校全般に関わる情報を SNS 等を用いた計画的な発信が推薦受験生徒数の増加に繋がったと考えています。有効だったこれらの方法を工夫改善し、今年度も継続します。

- ・中学受験科目と英語試験導入の検証、多様な受験の研究
- ・受験生増加対策の研究と実践
- ・専門英語科・音楽科の受験生動向の研究(継続)
- ・入試広報活動で得た情報の共有
- ・Web 出願の検討

2) 広報

昨年度同様、コロナ禍の状況の継続が予想されます。安心安全な環境で生活を送れること、本校が継続する教育活動(商品開発・SDGs 教育・GSlob・スタディ・ツアーアー・他)に探究型授業、LPB 教育への取組みなど、総合的な学びを実践する学校であることを広く告知します。生徒でつくる広報研究会が、説明会・問題解説会の企画に加わるなどの内容を、SNS を活用した事前事後広報を行います。

- ・SNS 等デジタル広報媒体有効活用の研究
- ・オープンキャンパス(小学生対象)の継続開催
- ・広報研究部(在校生徒)参加による学校説明会の企画検討
- ・コロナ禍での広報活動の検討
- ・学校塾訪問体制の継続と強化

5. 教育環境及び施設設備、財政について

1) ICT 環境

コロナ禍に伴う文科省 GIGA スクール構想の前倒し実施を受けて、ICT 環境整備臨時委員会での検討を経て、学園の支援で整備された Wi-Fi 環境を用い、今年度は中学生に一人一台端末を活用した授業展開を行い高校での活用に備えます。

今後も学園全体での ICT 教育に関する議論に期待します。

- ・学園 ICT 活用教育委員会との連携協力
- ・教員のデジタル指導書導入と活用研究
- ・キャリア教育・ICT 教材等の研究
- ・ICT 機器の保守管理体制の強化

2) 財政目標、財政改善の取組み

財政問題は本校の危急の課題であり、財政健全化のための努力を全校あげて行い、支出削減努力を継続していきます。同時に偏った支出項目の削減ではなく、バランスを保ち教育活動に委縮を招かない形を追求します。募集定員の充足を実現することが本校財政健全化に直結することを教職員が意識共有し、卒業実績の充実、広報活動の改善を図りながら、全教員で入学生徒数増にこれまで以上に力を注ぎ、今年度は 2030 年度教育活動収支差額均衡を目指し、2025 年度に向けた財政健全化計画を策定します。

6. 高大連携及び地域連携について

Core コースに医療看護系、北星学園大系コースを新設したことは関係強化に繋がりました。今後調整も必要ですが、中学生段階から大谷地キャンパスとの関りを持つ機会を作るなど、北星学園大学・北星学園大学短期大学部を更に身近に感じる試みを検討します。これまで実践してきた教育を発展させながら学園内中等教育部門としての立場を意識して関係の強化に努力することが重要です。また教育連携だけでなく総体的な学園連携を更に意識する取組みを大学と協議する必要があります。

4 年目を迎えた町内会との校庭リンゴ共同育成と町内ゴミ拾い運動を継続します。コロナ禍のため変更された町内会雪明りづくり、中央区との食育教育連携事業、中止になった校内行事（サラズステラ祭・スタディーツアーポスターセッション）への招待を行います。

7. その他

1) 学校運営のあり方

2021 年度から学校運営体制を一部変更し、教育改革第Ⅱ期に向けた教育活動並びに運営体制の改善強化のための整備にあたります。

- ・教頭 3 人制：担当業務の効率化と教育改革第Ⅱ期の推進。
- ・教育研究部の新設：従来の分掌、科コース、学年を横断する教育活動担当。
- ・常設委員会の設置：懸案事項へのスピーディな対応を目的として
コロナ対策委員会・新カリキュラム委員会・ICT 委員会・他

2) 理事会との連携

学園を構成する中等教育学校としての意識を教職員が共有し、学園の歴史を一番長く担つて来た学校として教育・歴史・特徴を活かす教育活動にあたります。北星学園が社会と時代に認知評価されるために中等教育部門から理事会への協力を惜しみません。

3) 学校改革

昨年度で 2020 プロジェクトが終了しましたが、プロジェクト最終年度は予想もしなかつた新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受け、計画を大きく変更しなければなりませんでした。この間に経験を通して蓄積した内容を、教育改革第Ⅱ期・グランドデザイ

ンに生かしていくかなければなりません。教育改革を含む学校改革が目指すところは生徒により良い教育を提供することだと考えます。十分な検討と論議が必要ですが、論議の中心に必ず生徒の視点が優先される必要があります。そして、現在の女子中高にとっては生徒募集につながることが非常に重要です。

- ・生徒の視点に立った学校改革であること。
- ・生徒募集に好影響を与える学校改革であること。

以上